

平成29年度 住宅地盤主任技士（調査部門） 正解および解説

問 題	正解	解 説
1	2	堆積段丘
2	3	砂嘴
3	4	分級された土は、粒径がせまい範囲に集中している状態を表現。
4	3	圧密度 100%までの部分が一次圧密、それ以降の部分を二次圧密という。
5	4	CD 試験は砂質土地盤の安定に用いられる。粘性土には UU 試験を行う。
6	1	B が正しい。A は $H_2$ 、C は $H_1$ が、D はすべて誤り。
7	3	盛土や表土の厚さを調べるには、ハンドオーガボーリングなどを計画する必要がある。
8	1	谷底侵食低地
9	4	手動落下のトンビ法は不可。
10	2	調査後 20～30 分経過必要。
11	2	SPT サンプラーで採取された試料は乱された試料。
12	1	ロッドに加わる周面摩擦の影響がある。
13	3	有機物含有量を強熱減量の試験で判定。
14	4	砂丘は微地形区分からみて液状化の可能性は小さい。
15	1	のり尻（谷側）の方向に 3～5% 程度の勾配をとる。
16	3	沈下では、背面側に倒れ込む。
17	4	定着が問題となる場合は、プレボーリングなどの計画が必要。
18	3	鉄筋によって引張力に抵抗させるもの。
19	3	分散角 30 度の改良出幅は 0.65m 以上。
20	4	芯ずれの許容範囲は 6 分の D 以内。
21	4	管理トルク値に到達した深さが $1D_r$ 以上圧入。
22	1	N 値 6 以上が 2m 以上連続する地盤。
23	2	供託または保険への加入を義務付けている。
計 算 問 題		$\text{乾燥重量 } m_s = \frac{3,240}{(1+20/100)} = 2,700 \text{ (g)}$ $\text{乾燥密度 } \rho_d = \frac{2,700}{1,800} = 1.5 \text{ (g/cm}^3\text{)}$
記 述 問 題		① 資料調査 ② 現地調査（目視、外観調査、地盤調査） ③ 関係法令 ④ 問題があった場合の対処